

# 第1学年 生活科学習指導案

は組 男子 20名 女子 20名 計 40名  
指 導 者 岩 本 博 裕

## 1 単 元 みんなであそぼう

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、学校探検の活動等を通して、学校の様子がおおよそわかり、落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきている。そして、自分の周りへの興味・関心が増してきたり、友達存在を意識し出したりする中で、『もっとみんなと仲良くなりたい』『体を思いっきり動かして友達と遊びたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本単元では、校内の散歩や砂遊び、公園遊び等の身近なものにかかわる活動に、子どもたちを主体的・能動的に取り組みさせる中で、一人一人の遊びたいという願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めようとするものである。同時に、これまでの経験を基に、諸感覚を使って試行錯誤しながら遊んだり、自分の遊び方と友達の遊び方を比べたりして、遊び方を自分なりに工夫する力を培おうとするものである。また、校内や公園で楽しく遊ぶことができる遊びに気付いたり、道具や公共施設の正しい使い方や後始末の仕方を身に付けたりすることもねらっている。さらには、これらの活動を通して、自分のよさや成長に気付かせることもねらっている。

なお、この活動は、『もっと校内の生き物とも仲良くなりたい』『生き物を育ててみたい』という願いとして夏休み後の「生きものとなかよし」の活動へと発展するものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

遊びは、自分でルールを考えたり、楽しくなるように工夫したりして、自分らしさを発揮できるものである。また、思考と行動が未分化なこの時期の子どもにとって、身体全体を使って活動できる遊びは、諸感覚を使うことができ、自ら考え、判断し、行動する基盤となる力を培うことにつながる有効な方法であり、内容である。砂や土は、自分で思ったものを表現したり、すぐに作り直したりできる可塑性をもち、この期の子どもが没頭でき、その子なりの試行錯誤が生まれる素材である。公園は遊び場としての遊具やそこを利用する人々や施設、草花等といった子どもを取り巻く環境の縮図であり、その中で遊びに没頭することにより多くの学びが生まれる場所である。さらに、これらのものは身近なものであり興味をもちやすく、同じ活動を行う友達とのかかわり合いが生まれやすいものでもある。したがって、このような砂や土、公園で遊ぶ活動は、自分なりに活動を広げたり、友達と共に活動する楽しさを味わったりできるものである。

このような身近なものを対象にした遊びに、子どもたちが主体的に取り組み、身近なものや友達とのかかわり合いを深めるために、特に砂遊びの活動を図画工作科の学習と関連して行い、ゆっくりたっぷり活動に取り組めるようにしたい。さらに、友達とのかかわりをもつ中で、自然のものへの気付きや友達のよさを伝え合い交流させることを重点化していきたい。

具体的には、まず、「さんぽをしよう」の活動で、学校探検で見つけた遊具や施設、草花、人々を確認しながら校内を散歩し、夏探しをしたり、できる遊びを見付けたりしていきたい。その中で季節の変化に気付かせ、工夫して遊びたいという意欲を高めていきたい。次に散歩の活動で高まった遊びへの思いを基に「ともだちとあそぼう」の活動へと展開し、砂や土での遊び、室内での遊びを子どもの思いを基に設定していきたい。これらの遊びについては、一人一人の遊びの発想を大切に、工夫して遊んでいくように支援したい。さらに図画工作科の『たのしいすなあそび』や学級活動の「友達を作ろう」と関連して、友達とのかかわり合いを重点化し、友達と一緒に活動できることのよさや楽しさを味わせ、友達のよさや自分との違いに気付くことができるようにしたい。そして、活動場所を学校から地域へと広げ、「こうえんであそぼう」の活動へと発展する。公園では自分の身近な公園との違いや遊具の遊び方、遊具や施設はみんなのものであることに気付かせ、大

切に利用できるようにしたい。さらに、友達と施設を使って思う存分活動したり、試行錯誤しながら遊びを生み出したりしていけるようにしていきたい。最後に夏休み前に「もうすぐなつやすみ」の活動を設定し、夏休みの自分の生活について話し合わせ、目的をもった生活ができるようにすると共に、家庭や地域での遊びへの意欲をさらに高めるようにしたい。

なお、活動の展開においては、一人一人の実態に応じた支援をし、お互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、活動が連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうと共に、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていくとする意欲を高めることができると思う。

### (3) 子どもの実態 (対象者 は組 40名, 数値は延べ人数)

<夏にしたい遊び>	
・プール,水遊び(25)・虫取り(14)・外遊び(6)	
・砂,どろ遊び(4)・シャボン玉(2)	
<砂場でしたい遊び>	
・山や川づくり(25)・トンネル・穴掘り(16)	
・建物や町づくり(9)・だんごやケーキ作り(5)	
<遊び方>	
・みんなで(40) 一人で(0)	
<室内での遊び>	
・音楽を取り入れた遊び(貨物列車・指遊び)(22)	
・工作(15)・椅子取りゲーム(8)・折り紙(5)	
<公園でしたい遊び>	
・ブランコ(19)・滑り台(8)・おにごっこ(7)	
・ジャングルジム(7)・ボール遊び(4)・縄跳び(2)	
・木登り,かけっこ,かくれんぼ(1)・他の遊具(6)	
<砂場で遊んだ経験>	
・ある(38) ない(2)	

入学当初は、同じ幼稚園だった友達と遊んでいた子どもが多かったが、次第に、席が近くの友達と遊ぶようになり、友達も増えてきている。夏にしたい遊びでは、水遊びや虫取りが多く、砂遊びの機会は少ない。よって、「みんなであそぼう」では、砂や土の素材のよさを感じさせるように配慮する必要がある。その点、砂場でしたい遊びには、山・川・町作り等、友達とのかかわりが期待されるものが多く、さらには一人より何人かの友達と一緒に活動したいという意欲が高いので、友達と一緒に活動して『友達と活動して楽しかった』と実感させるようにする。そのためにも、友達とのかかわり合いが生まれ、遊びを工夫していける

ような働きかけが必要である。さらには、砂場遊びにおいて何を作るのかはっきりしていない子どもがいるので、具体的に自分が何を作りたいのかしっかりと考えをもたせるようにしていきたい。次に、室内での遊びでは、自分たちで遊びを作り出すという経験は少ないようである。そこで、教師が身近なものを使ったおもちゃを紹介し、工夫したおもちゃ作りや遊びを展開できるように働きかけていきたい。さらに、公園での遊びについては、遊具を中心にした遊びの経験が伺える。そこで、学校で友達と一緒に遊んで楽しかったことを生かし、さらに公園で遊びを工夫してみんなで遊べるようにしていきたい。また、教師も子どもの遊びの中に積極的に入り、一緒に遊びながらタイミングを見て、公共施設の使い方について具体的に指導していくようにする。なお、学校生活が始まってまだ間のない子どもたちであり、些細なことでトラブルが起こることが予想される。教師は、けんかも成長するための学びの過程だと捉えて、双方の考えを十分聞いて共感した上で、次からどのように行動したり、発言したりしたらいいか考えられるように励ますようにする。

### (4) 指導上の留意点

ア 「さんぽにでかけよう」の活動では、季節の変化やいろいろな遊びを見付けることができるようにするために、全員で学校内の様子を見て回るようにしたい。その中で、子どもが考えるものを取り上げ、季節のとらえ方や夏に関する遊びに気付かせるようにしたい。さらに、遊びを見付け遊び始める子どもがいた場合は、しばらくはそのまま遊ばせ、どんな楽しさがあるのか問いかけて遊びが広がったり、深まったりするようにしたい。

イ 「ともだちとあそぼう」の活動では、砂・土遊びと室内での遊びを設定するが、天候や子どもの思いや願いに応じて活動を展開することにする。また、砂・土遊びにおいては、子どもが活動にじっくり取り組み、諸感覚を十分に発揮し、試行錯誤することができるようにするために、同内容の図画工作科の学習と関連させ、活動が広がったり深まったりするようにする。そして、友

達とのかかわり合いが生まれるような環境を準備していきたい。さらに、室内での遊びにおいては、教師の身近なものを使ったおもちゃ遊びから始めさせ、もっと自分たちでできる楽しいものはないかと問いかけることで活動が広がったり、深まったりするようにしていきたい。

ウ 「こうえんであそぼう」の活動では、友達とのかかわり合いを深め、公園の利用の仕方を気付くようにするために、繰り返し公園に出向き遊びを展開する。1回目の活動では、公園までの歩き方や横断歩道の渡り方等交通ルールを指導したり、自分が遊ぶ公園との違いを見付けさせたりして、中村公園に興味をもたせるようにしたい。2回目の活動では、一人遊びからグループ遊びへと発展すると考えられる。そこで、友達と楽しく遊ぶことができるようにするためにルールの必要性に気付かせるようにしたい。さらに、3回目の活動では、公園の利用の仕方に気付かせるために、どのような施設があり、自分はどんな使い方をしたかを振り返らせるようにしたい。

エ 「もうすぐ夏休み」の活動では、めあてをもって夏休みの生活がおくれるようにするために、これまでの学習で分かったことやできるようになったことを振り返らせ、夏休みも継続してできることはないかを見付けさせるようにしたい。

### 3 目 標

- (1) 砂や土遊び、室内での遊び等自分なりに遊びを工夫する活動に進んで取り組むと共に、自分なりの願いの達成に向けて意欲的に取り組むことができる。
- (2) これまでの遊びの経験や友達との情報交換を基に、試行錯誤しながら学校内の遊びや公園での遊びを工夫したり、友達とかかわり合ったりしながら遊びを広げたり深めたりすることができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉で表現することができる。
- (3) 夏の自然の様子や土や砂を使った遊び方、公園の利用の仕方等に気付くと共に、後始末や安全な歩行等の習慣・技能を身に付けることができる。また、友達と仲良くかかわることができた自分のよさや成長に気付くことができる。

### 4 指 導 計 画 (全18時間)

活動する 楽しさ	活 動 名 (意識の高まりと気付きの様相)	主 な 学 習 活 動 ( 時 間 )	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○夏と感じられるものを見付けることができる楽しさ	・どんなところが、変わったかな。 ・夏服にかわったぞ。	校庭を探して、春の頃との違いやいろいろな遊びを見付ける。(2) 自分が見付けた見付けたことや気付いたことをカードに書いて発表する。(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学した頃と比べ、夏を感じるができるようにするために、正門前や学習林等4月によく活動していたところは、ゆっくり回るようにする。</li> <li>・一人一人が諸感覚を使って取り組み、対象へのかかわりに試行錯誤が生まれるようにするために、使う道具を限定したり、素材の特徴を実感できるような問いかけを行ったりする。</li> <li>・みんなで作りたいという思いを高め、活動に広がり・深まりが生まれるために砂山を準備し、徐々に砂場全体が変わっていく様子がわかる中で友達との共同作業に充実感をもたせるようにする。</li> <li>・公園の利用の仕方に気付かせるために自分が遊んで困ったことや自分たちの他にどんな人が遊びに来ていたかを想起し利用の仕方を話し合わせるようにする。</li> <li>・夏休みの生活が充実できるように、自分のめあてやする事を考えさせるようにする。</li> </ul>
○遊具や施設を使った遊びを見付けることができる楽しさ	さんぽにでかけよう (3時間) ・身体いっぱい使って遊びたいな。	砂や水の特長を生かしながら、自分が表したいものを作る。 本時2/2 (2)	
○身体いっぱい使って遊ぶことができる楽しさ	ともだちとあそぼう (6時間) ・みんなと仲良く遊べたよ。 ・今度のもっと広いところで、思いっきり遊びたいな。	友達と協力して、みんなで作りたいものを作り上げる。(2) 室内でみんなと遊ぶ。(2)	
○友達と一緒に力を合わせて作ることができる楽しさ	こうえんであそぼう (8時間)	自分の公園との違いを見付けたり、自由に遊んだりする。(2) 公園に生き、自分たちでルールを決めて友達と楽しく遊ぶ。(5)	
○公園で思いっきり遊び、利用の仕方が分かる楽しさ	・もうすぐなつやすみだぞ。 ・どんなことをしようかな。	公園の秘密を見付けたり、楽しかったことを絵カードに書いて発表したりする。(1)	
○考えを表現する楽しさ	もうすぐ夏休み (1時間)	夏休みの生活について話し合う。	

## 5 本 時 (5 / 18)

### (1) 目 標

ア 『砂や土で思いっきり遊びたい』『みんなで仲良く遊びたい』という願いを基に、砂や土で遊ぶ活動に思う存分浸る楽しさを味わいながら、進んで取り組むことができる。

イ 砂や土を使った遊びを友達と一緒にできると共に、砂や土の特性に気付いたり、友達と仲良く接したりすることができる。また、活動を通して道具の使い方や後始末等の習慣・技能を身に付けることができる。

### (2) 本時の展開に当たって

子どもたちがこれまでの砂・土遊びの経験を生かし、自分が作りたいものを友達と協力・分担しながら作り上げることができるようにするために、お互いに作り方を教え合ったり、友達のよさを認め合ったりできるように支援しながら、活動を展開していきたい。

### (3) 準 備

材料 (砂や土、水等)、道具 (スコップ、バケツ、一輪車、空き容器等)


### (4) 展 開

学習過程	主 な 学 習 活 動	時間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
意 欲 を も つ	本時が始まる前までに、子どもたちは自分の力で身支度を整えて砂場の周りに集まるようにする。		
	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 ・ぼくは、トンネルをつくりたいなあ。 ・ぼくは、山から水を流してみたいなあ。 ・わたしは、土団子を作りたいなあ。 ともだちとたのしくすなやつちであそぼう。	(分) 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動のための身支度や準備の習慣・技能を身に付けさせるために、脱いだ衣服やスリッパはきれいに並べておくことを一人一人に具体的に指導する。</li> <li>○ 本時の学習意欲を高めるために、写真を見せ、これまでの活動の様子を振り返らせるようにする。</li> <li>○ 砂や土の特性、友達と仲良く活動することのよさに気付かせるために、どうしてその活動をしようと思ったのか問いかけたり、取り組み方のよさを価値付けたりする。また、遊びを工夫している子どもを称賛し、周りの子どもに紹介する。</li> <li>○ 活動に進んで取り組めるようにするために音楽をかける。</li> <li>○ 個への対応</li> </ul>
活 動 す る	2 道具の使い方や安全な遊び方を確認する。 ・遊び方 ・道具の使い方 ・衛生管理面 3 自分なりに工夫しながら砂や土で遊ぶ。 作 穴掘り 建物 キ 団子 トンネル 山や川 遊ぶ	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料や道具の特性から               <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂はさらさらだけど、水をかけたら固まるよ。</li> <li>・乾いた砂をかけるときれいに見えるよ。</li> <li>・土の方が硬くなるなあ。</li> </ul> </li> <li>○ 友達との情報交換から               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教えてもらって、まねをしたら自分にもできたよ。</li> <li>・友達と一緒に考えたらすごく楽しかったよ。</li> <li>・僕、新しい考えでやったらこんなのができたよ。</li> </ul> </li> <li>○ 友達とのかかわり・よさの認め合いから               <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつの間にか一緒に作っていたよ。</li> <li>・〇〇君と友達になれたよ。もっと仲良くなりたいなあ。</li> <li>・もっと一緒に遊びたいな。</li> <li>・僕が作ったところも友達が「すごいね」って言ってくれたよ。</li> </ul> </li> </ul>
	4 道具の後始末をする。 5 遊んでできたことや楽しかったことを紹介し合う。 ・砂や土って何度も作れるぞ。 ・こんどは、みんなで一緒に作ってみたいなあ。		10

# 生活科 公開授業B 学びの構造図

内容項目『自然や物を使った遊び』  
 <第1学年 単元「みんなで あそぼう」(5/18) 授業B 1年は組 指導者 岩本 博裕>

授業の主張について  
 ~友達と一緒に砂場遊びを体全身で味わって...~  
 今回の私の主張: 自然の不思議さや面白さを実感させるために  
 →砂や土に触れ合う場の設定を行います。また、教師の問いかけも工夫してみました。  
 習慣: 技能の育成のために  
 →日常生活と絡めて考えさせるようにしました。



## 1 目標

ア 『砂や土で思いっきり遊びたい』『みんなで仲良く遊びたい』という思いや願いを基に、砂や土で遊ぶ活動に思う存分浸る楽しさを味わいながら、進んで取り組むことができる。  
 イ 砂や土を使った遊びを友達と一緒にできると共に、砂や土の特性に気付いたり、友達と仲良く接したりすることができる。また、活動を通して道具の使い方や後始末等の習慣・技能を身に付けることができる。

## 2 準備

材料 (砂や土、水等)、道具 (スコップ、バケツ、一輪車、空き容器等)、ラジカセ 等

## 3 子どもの学びの想定と教師の働きかけ (学習過程・学習活動・学習形態・環境構成・教師の具体的な働きかけ)

学習過程	主な学習活動 (その子なりの学びの道筋)	時間	環境構成 (活動場所・裏庭砂場)
意欲をもつ	前時までの学習を振り返る。 ・もっと高い山をつくりたいなあ。 ・壊れにくいお城を造りたいなあ。 ・長い川を作りたいなあ。 ・土で団子を作りたいなあ。 ともだちとたのしくすなやつちであそぼう 道具の使い方や安全な遊び方について確認 ・順番を守って使わないとね。 ・困っているお友達に貸してあげよう	7	※ 本時が始まる前までに、子どもたちは自分たちの力で身支度を整えて砂場の周りに集まるようにする。 (誰もいない教室も見てください。)
活動する	みんなで工夫しながら砂や土で遊ぶ。 砂グループ ☆ 山グループ ・もっともっと高くしたい。 ☆ 川グループ ・もっと長い川にしたいな。 ☆ ビルグループ ・本物みたいにしたいな。 ☆ トンネルグループ ・長いトンネルにしたいなあ。 ☆ お城グループ ・壊れないように作りたいなあ。 土グループ ☆ お団子 ・丸くなるように作りたいなあ。	28	学習の場 中学校 校舎 裏庭庫 水道 集合場所 黒板 砂場 大学構内 <ポイント1> 子どもたちの活動意欲を高めるために ○ これまでを想起できる板書をする。 ○ 砂や土を使って活動したいという意欲を高めるために、前時の学習を振り返る。 ○ 活動中は、その子なりの取り組み方のよさを見取り、子どもたちに問いかける。その際、どうしてその活動しているのか問いかけ、その子なりの考えを引き出していきたい。 ○ もっとどのようにしていくと楽しくなるか考えさせることで具体的な活動の見通しをもたせ、活動意欲を高めていく。 <ポイント2> 自然の不思議さや面白さを実感させるために ○ 砂場と土場を設定し、砂と土の相違点を見付けられるよう場の設定をする。 ○ 自然の不思議さや面白さを実感できるように砂や土の特性や違い等を考えさせるような問いかけを行っていく。 ○ 身の回りの自然物等を活用して遊ぶ子を大いに称賛し、価値付けるようにしていく。 ○ 終末では、砂や土で遊んで楽しかったことを発問し、砂や土の面白さを考えられるように板書していく。 <ポイント3> 友達とのかかわりを深めるために ○ 自分の考えや工夫したことを交流させるために、一緒に活動している子ども同士、相談したり、遊びの輪を広げたりしながら遊ぶように声かけをする。 ○ 具体的な声かけや、励ましの声などを教師が取り上げ、子どもに紹介することで、友達と一緒に活動することの楽しさや、喜びを味わわせていく。
振り返る	道具の後片付けをする。 ・自分が使った物は、きれいに直そう。 ・水で洗うと次の人が使いやすいね。 ・次に使う人が気持ちがいいね。 遊んで楽しかったことを発表する。 ・砂や土って何度も作れるぞ。 ・もっと砂や土で遊びたいなあ。 ・こんどは、みんなで一緒に作ってみたいなあ。 ・早く「いぐみのまち」を完成させたいなあ。	10	<ポイント4> 活動できたことの成就感を味わわせるために ○ 友達と協力して取り組んだことへの成就感を味わわせるためにお互いのよさを認め合える場を設定する。